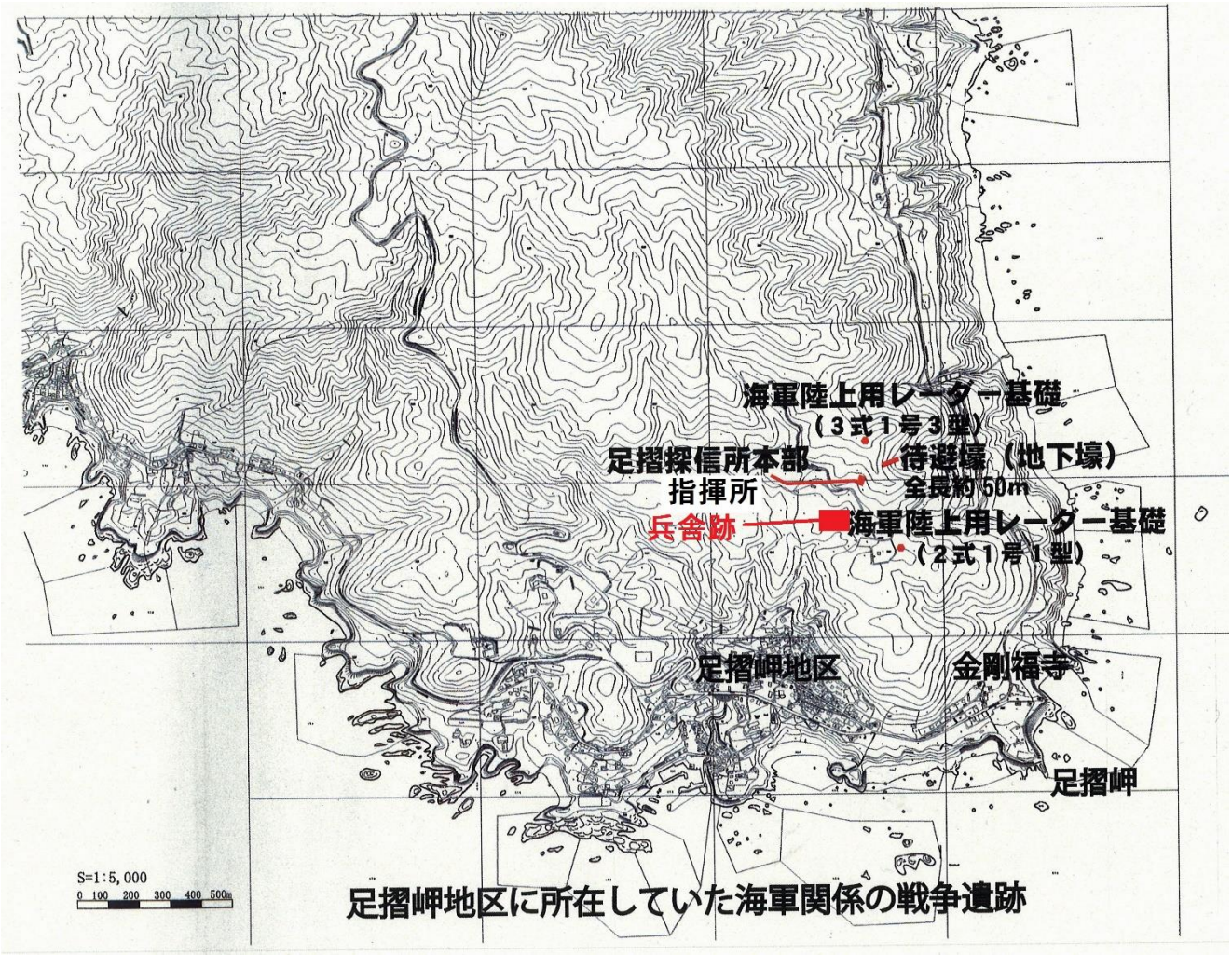
=市史編さん便り=　【39 号】 令和 4 年 10 月 27 日(木) 発行.
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

◎海軍「呉海軍警備隊」傘下・足摺探信所の歴史・・・

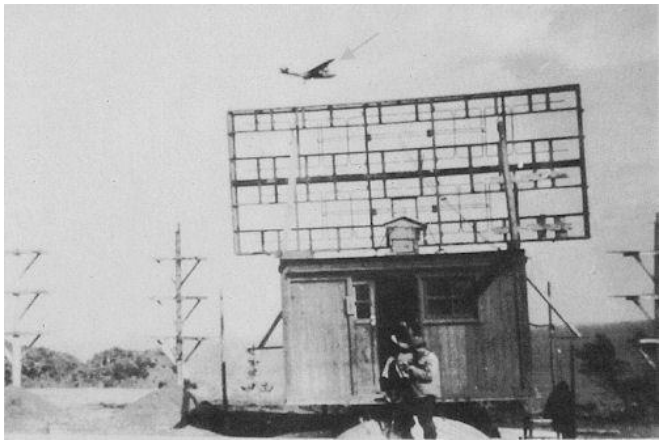
戦時中、足摺岬山の通称「天狗山」に海軍のレーダー基地・弾薬庫・本部指揮所・待避壕・防空壕・兵舎などが建設されていた。これらは呉海軍警備隊(本部・広島県)傘下の足摺探信所と呼ばれる一連の軍事施設であった。

昭和 17 年(1942)5 月末、足摺岬山上の通称「天狗山」に送受信が一体となった陸上用電波探信儀(レーダー)を設置するべく、その工事に着手した。この工事について、『伊佐国民学校日誌 (①②)』「故山田泉氏(元市議会議員・足摺岬出身)の証言(③)」には、次のような記述が見られる。レーダー基地のコンクリート土台を建設するために資材として、多くの小学生を含めた学校関係者が、砂・小石などを 2 キロ程離れた山上に運搬したのである。

①「昭和 17 年 5 月 30 日土曜日、男教員 3 人海軍ノ仕事ニ出ル。」
②「昭和 17 年 6 月 2 日火曜日、四年以上海軍ノ工事ニ勤労奉仕ス。」
③「松尾の小学校高等科へ通学する前に、(天狗山に)毎朝、石や砂を運び上げた。」



足摺岬地区に所在していた海軍関係の戦争遺跡



足摺探信所に置かれていた 3 式 2 号 1 型レーダー(左写真)と天狗山山上に残るレーダーのコンクリート基礎部分(右写真)。

足摺探信所本部指揮所跡(左写真)、天狗山の尾根を貫通する退避壕(右写真)。

足摺探信所のレーダー設置は、昭和 17 年(1942)5 月末から着手し、地元住民はもとより、沖ノ島からも二十数名の若い女性たちが奉仕活動として参加した。また、地域住民の証言では、朝鮮人親子も砂の運搬に徴用され、ぼろぼろの服を着て天秤に砂を担いだという。レーダーの山上への運搬は困難を極め、100 人余りの朝鮮人が徴用され、7～8 月の 2 か月がかりで運搬されたという。同年の 8 月末には基地は完成していた。この年のミッドウエー沖海戦で大敗し、戦局は米軍優勢に傾く。必然的に足摺探信所におかれるレーダーも増設された。終戦まで 4 組のレーダーを設置するに至った。

この足摺探信所に常駐した兵数は不明であるが、レーダー2 基で兵士 50 人、3 基で 70 人、4 基で 80 人という基準があったことから、恐らく 80 人規模の兵隊が常駐していたのではないかと思われる。足摺探信所所長・島歳雄氏は、足摺岬地区武山音五郎氏宅に夫婦で下宿していたという。

【編集後記】足摺岬小 5～6 年生の総合学習において、11 月 2 日午前中は、この足摺探信所関連施設のフィールドワークを行う予定です。これをもとに 11 月 9 日午後から足摺探信所の戦争遺跡についての授業を行います。平和教材は地元にもたくさん残っているということを多くの小学生に知ってもらいたいと思います。(田村)